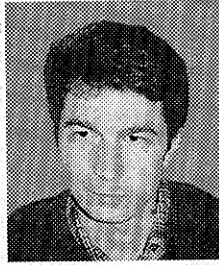


フォーラム



先月、韓国と朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）を隔てる軍事境界線付近で銃撃戦が起き、北朝鮮兵十三人が死亡、南北関係の不安定さを改めて印象つけた。昨年八月までの四年間、イタル・タス通信（当時はタス通信）平壤特派員

イタル・タス通信ソウル支局長
イワン・ザハルチェンコ氏

をつとめた後、昨年末からソウル支局長として活躍しているイワン・ザハルチェンコ氏（31）に朝鮮半島情勢の行方などを聞いた。

——南北不可侵を定めた合意書が発効し、和解ムードの中で突

南北朝鮮銃撃戦、対話に影響なし

然の銃撃戦だったが、事件についてそれほど意外な印象は持たなかった。過去、南北対話が進展する時にはこうした事件がよく発生した。今回の事件の詳細

しい背景は情報不足でよく分から

ないが、大きく見れば南北の対話は進んでいるし、関係も安定していると思う。

——北朝鮮の核開発疑惑が南北対話の大きな障害になっている。北朝鮮の核開発については不明

の表立った干渉は無くなった。平壤市民のロシアに対する感情も大きな変化はない。

な点が多い。ロシアは朝鮮半島が非核化することを望んでおり、韓

るが、平壤と比べての印象は、ソウルに赴任した当初は、南北

は完全に異なる国だと感じた。しかしその後、多くの類似点に気づくようになった。例えば市内バスの運転の乱暴さ。平壤は車は少ないが、ソウルと同様、運転手が不注意で急ぐので、事故が多いのもよく似ている。

ともあるが、正常化後はその種

——南北統一の見通しは、南北対話は双方にとって必要

だ。ロシアも等距離外交で後押しするだろう。しかし南北統一は理論的にも、現実的にも複雑な作業だ。展望が開けるまで五年以上はかかるのではないか。

(ソウル吉川記者)